

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年2月13日
【四半期会計期間】	第23期第3四半期（自 2022年10月1日 至 2022年12月31日）
【会社名】	株式会社アルファポリス
【英訳名】	AlphaPolis Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 梶本 雄介
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号 恵比寿ガーデンプレイスタワー 8F
【電話番号】	03-6277-1602
【事務連絡者氏名】	取締役兼管理本部本部長 大久保 明道
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号 恵比寿ガーデンプレイスタワー 8F
【電話番号】	03-6277-0123
【事務連絡者氏名】	取締役兼管理本部本部長 大久保 明道
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第22期 第3四半期累計期間	第23期 第3四半期累計期間	第22期
会計期間	自2021年4月1日 至2021年12月31日	自2022年4月1日 至2022年12月31日	自2021年4月1日 至2022年3月31日
売上高 (千円)	6,981,346	6,974,871	9,090,196
経常利益 (千円)	1,677,824	1,862,993	2,201,782
四半期(当期)純利益 (千円)	1,040,760	1,149,215	1,389,721
持分法を適用した場合の投資損失 (千円)	1,346	8,281	1,138
資本金 (千円)	863,824	863,824	863,824
発行済株式総数 (株)	9,687,400	9,687,400	9,687,400
純資産額 (千円)	8,430,487	9,928,663	8,779,448
総資産額 (千円)	10,135,564	11,786,675	10,501,594
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	107.44	118.63	143.46
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	83.2	84.2	83.6

回次	第22期 第3四半期会計期間	第23期 第3四半期会計期間
会計期間	自2021年10月1日 至2021年12月31日	自2022年10月1日 至2022年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	46.16	47.39

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

当社の関連会社である株式会社アルファゲームスは、2022年9月開催の同社臨時株主総会において解散を決議し、現在清算手続き中であります。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第3四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第3四半期累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）におけるわが国経済は、ウィズコロナの下で各種政策の効果もあって持ち直しの動きがみられるものの、海外景気の下振れによるリスクや、物価上昇、供給面での制約等による影響が懸念される等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社が属する出版業界におきましては、紙と電子を合算した出版市場（推定販売金額）は、4年ぶりのマイナス成長となりました。公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所によると、2022年（1月から12月まで）の紙と電子出版を合算した推定販売金額は前年比2.6%減の1兆6,305億円となり、その内訳は、紙の出版物については同6.5%減の1兆1,292億円、電子出版については同7.5%増の5,013億円と、紙の市場が前年を下回った一方で、電子出版市場の拡大が続いております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いもの望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。

当第3四半期累計期間における書籍のジャンル別の概況は以下の通りであります。

ライトノベル

当第3四半期累計期間の刊行点数は前年同期を大きく上回る193点（前年同期比40点増）となりました。各書籍の売れ行きにつきましては、『余りモノ異世界人の自由生活』や『攫われた転生王子は下町でスローライフを満喫中!』等の当社開催の賞レースから誕生した作品が好調に推移いたしました。また、2021年3月に新たに創刊したボーイズラブレーベル「アンダルシュノベルズ」につきましても、電子書籍との親和性も高く好調に推移しており、「男性向けライトノベル」「レジーナブックス」に次ぐレーベルに成長しております。

結果、当第3四半期累計期間の売上高は想定通りに進捗しましたが、前年同期における『月が導く異世界道中』のTVアニメ放送に伴う原作小説売上の大幅伸長の反動減から前年同期を僅かに下回る金額で着地いたしました。

漫画

当第3四半期累計期間の刊行点数は前年同期を上回る112点（前年同期比6点増）となりました。各書籍の売れ行きにつきましては、TVアニメ第2期制作中の大ヒット作『月が導く異世界道中』の最新11巻が紙書籍、電子書籍ともに前巻を超える好調な売れ行きを示し、また『ゲート』『自称悪役令嬢な妻の観察記録。』等の大型人気シリーズの続刊も引き続き堅調に推移いたしました。さらに、当ジャンルと親和性が非常に高い電子書籍販売につきましても、販売体制を強化したことや、電子取次及び電子ストアと密なコミュニケーションを図り、各ストアの特色やユーザー層に合わせた拡販施策を推進したこと等により、売上は増加いたしました。

結果、当第3四半期累計期間の売上高は『月が導く異世界道中』のTVアニメ放送によって大きく伸長した前年同期を上回る金額で着地いたしました。

文庫

当第3四半期累計期間の刊行点数は前年同期を上回る120点（前年同期比13点増）となりました。時代小説ジャンルとして第7回歴史・時代小説大賞の大賞受賞作である『あしでまとい』を刊行し、さらにキャラ文芸ジャンルからは『こちら鎌倉あやかし社務所保険窓口』『久遠の呪祓師 怪異探偵犬神零の大正帝都アヤカシ奇譚』等の複数の書籍を刊行する等、取り扱いジャンルの開拓及び拡大に引き続き注力してまいりました。

結果、当第3四半期累計期間の売上高は前年同期を上回る金額で着地いたしました。

その他

当第3四半期累計期間の刊行点数は5点（前年同期比3点減）となりました。プロ野球東京ヤクルトスワローズ監督の高津臣吾氏による大人気ビジネス連載を書籍化した『明るく楽しく、強いチームをつくるために僕が考えてきたこと』を刊行し、想定通り好調な売れ行きを示し、当ジャンルの売上が牽引いたしました。

結果、当第3四半期累計期間の売上高は前年同期を上回る金額で着地いたしました。

以上の活動の結果、当第3四半期累計期間の売上高は、『月が導く異世界道中』のTVアニメ放送により大幅に伸長した前第3四半期累計期間の売上高と同水準となる6,974,871千円（前年同期比0.1%減）となりました。

利益面におきましては、主に前期7月から9月に実施したテレビCM放映をはじめとした当社サービスの認知度向上に向けた大型成長投資により一時的に増加した販売費及び一般管理費が減少したことから、当第3四半期累計期間の営業利益は1,856,768千円（前年同期比11.1%増）、経常利益は1,862,993千円（同11.0%増）、四半期純利益は1,149,215千円（同10.4%増）となり、特に当第3四半期会計期間の利益は、四半期単位で過去最高を更新いたしました。

（注）シリーズ累計部数：同作品の続編に加え、同作品の漫画及び文庫を含み、部数は電子書籍販売数を含む。

（2）財政状態の分析

資産

当第3四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べ1,341,097千円増加し、11,481,476千円となりました。これは主に、現金及び預金が増加（前事業年度末比961,793千円増）したこと並びに売掛金が増加（同242,843千円増）したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ56,016千円減少し、305,198千円となりました。これは主に、投資その他の資産が減少（同43,755千円減）したこと及び無形固定資産が減少（同9,545千円減）したことによるものであります。

負債

当第3四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ110,203千円増加し、1,811,490千円となりました。これは主に、流動負債のその他の増加（前事業年度末比110,702千円増）によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ25,662千円増加し、46,521千円となりました。これは主に、長期借入金の増加（同26,654千円増）によるものであります。

純資産

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ1,149,215千円増加し、9,928,663千円となりました。これは全て、利益剰余金の増加によるものであります。

（3）会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

（4）優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期累計期間において、当社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

（5）研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	32,000,000
計	32,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (2023年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,687,400	9,687,400	東京証券取引所 グロース市場	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	9,687,400	9,687,400	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2022年10月1日～ 2022年12月31日	-	9,687,400	-	863,824	-	853,824

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2022年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2022年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,683,600	96,836	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 3,600	-	-
発行済株式総数	9,687,400	-	-
総株主の議決権	-	96,836	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式70株が含まれております。

【自己株式等】

2022年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社アルファポリス	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号	200	-	200	0.00
計	-	200	-	200	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期財務諸表について、監査法人東海会計社による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第22期事業年度	東陽監査法人
第23期第3四半期会計期間及び第3四半期累計期間	監査法人東海会計社

3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,102,594	8,064,388
売掛金	2,637,541	2,880,385
製品	192,406	236,819
仕掛品	155,389	218,832
その他	52,447	81,051
流動資産合計	10,140,379	11,481,476
固定資産		
有形固定資産	34,333	31,618
無形固定資産	46,569	37,024
投資その他の資産	280,311	236,555
固定資産合計	361,214	305,198
資産合計	10,501,594	11,786,675
負債の部		
流動負債		
買掛金	52,096	45,552
1年内返済予定の長期借入金	20,088	27,542
未払金	600,211	658,052
未払法人税等	364,757	335,950
賞与引当金	50,593	11,832
投稿インセンティブ引当金	28,354	36,446
返金負債	427,174	427,401
その他	158,011	268,713
流動負債合計	1,701,287	1,811,490
固定負債		
長期借入金	17,164	43,818
その他	3,694	2,703
固定負債合計	20,858	46,521
負債合計	1,722,146	1,858,011
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	7,062,436	8,211,652
自己株式	637	637
株主資本合計	8,779,448	9,928,663
純資産合計	8,779,448	9,928,663
負債純資産合計	10,501,594	11,786,675

(2) 【四半期損益計算書】

【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	6,981,346	6,974,871
売上原価	1,553,815	1,654,773
売上総利益	5,427,531	5,320,097
販売費及び一般管理費	3,755,800	3,463,329
営業利益	1,671,730	1,856,768
営業外収益		
受取利息	25	31
前払式支払手段失効益	6,653	5,440
その他	-	895
営業外収益合計	6,679	6,367
営業外費用		
支払利息	174	142
その他	410	-
営業外費用合計	585	142
経常利益	1,677,824	1,862,993
特別損失		
関係会社株式評価損	-	9,419
特別損失合計	-	9,419
税引前四半期純利益	1,677,824	1,853,574
法人税等	637,063	704,358
四半期純利益	1,040,760	1,149,215

【注記事項】

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期財務諸表への影響はありません。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
減価償却費	18,413千円	20,517千円

(持分法損益等)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
関連会社に対する投資の金額	9,419千円	-
持分法を適用した場合の投資の金額	8,281	-

(注)関連会社に対する投資の金額は、減損処理しております。

	前第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
持分法を適用した場合の投資損失() の金額	1,346千円	8,281千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、出版事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
紙書籍売上高	1,629,407	1,456,401
電子書籍売上高	4,943,664	5,185,370
その他	408,274	333,099
顧客との契約から生じる収益	6,981,346	6,974,871
その他の収益	-	-
外部顧客への売上高	6,981,346	6,974,871

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	107.44円	118.63円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	1,040,760	1,149,215
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	1,040,760	1,149,215
普通株式の期中平均株式数(株)	9,687,170	9,687,130

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月13日

株式会社アルファポリス
取締役会 御中

監査法人東海会計社
愛知県名古屋市

代表社員 公認会計士 大島 幸一
業務執行社員

代表社員 公認会計士 小島 浩司
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アルファポリスの2022年4月1日から2023年3月31日までの第23期事業年度の第3四半期会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アルファポリスの2022年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

その他の事項

会社の2022年3月31日をもって終了した前事業年度の第3四半期会計期間及び第3四半期累計期間に係る四半期財務諸表並びに前事業年度の財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期財務諸表に対して2022年2月10日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該財務諸表に対して2022年6月22日付けで無限定適正意見を表明している。

四半期財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。